

生理学 担当講座（分野） : 生理学講座（病態生理学分野）

第1学年 後期

後期 講義 16.5時間 演習 7.5時間

教育成果（アウトカム）（講義）

生理学は生命現象のメカニズムを研究する学問である。人体は細胞から構成され、細胞が集まって組織、器官が作られる。それらが構造的に統合されて人体となる。生理学では人体のこれら各レベルでの正常な働きを理解することによって、臨床医学および臨床歯科医学の基盤となる基礎的な知識と考え方を習得する。

事前学修時間（30分）

シラバスに記載されている次の授業内容を確認し、教科書等を用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。

講義日程

月 日	担当者	ユニット名 一般目標	到達目標
9月18日（金） 2限	成田欣弥講師	<b>細胞膜を横切る水とイオン</b>  細胞膜を介して水がどのように移動するかを理解する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 細胞内外のイオン組成を説明できる。</li> <li>2. 拡散と浸透を説明できる。</li> <li>3. 浸透圧を説明できる。</li> <li>4. 溶液の濃度計算ができる。</li> <li>5. イオンチャネルと受動輸送を説明できる。</li> <li>6. イオンポンプと能動輸送を説明できる。</li> <li>7. 膜電位を説明できる。</li> <li>8. イオンの移動による膜電位の変化を説明できる。</li> </ol>
9月28日（月） 2限	成田欣弥講師	<b>細胞の電気現象 I</b>  細胞の内側と外側の電位差がどのようにできているかを理解する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平衡状態を説明できる。</li> <li>2. 平衡電位を説明できる。</li> <li>3. 静止膜電位を説明できる。</li> <li>4. 平衡電位の計算ができる。</li> </ol>
10月2日（金） 2限	成田欣弥講師	<b>細胞の電気現象 II</b>  細胞が電氣的に興奮するしくみを理解する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 活動電位の発生機構を説明できる。</li> <li>2. 電位依存性 Na<sup>+</sup>イオンチャネルを説明できる。</li> <li>3. 電位依存性 K<sup>+</sup>イオンチャネルを説明できる。</li> <li>4. 活動電位の性質を説明できる。</li> </ol>
10月30日（金） 2限	成田欣弥講師	<b>細胞の電気現象 III</b>  神経線維の興奮伝導を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 活動電位の伝導を説明できる。</li> <li>2. 神経線維の分類とそれぞれの特徴を説明できる。</li> </ol>
11月6日（金） 2限	成田欣弥講師	<b>生理学演習 1</b>	これまでの講義内容（細胞膜を横切る水とイオン・細胞の電気現象）について総合的に説明できる。

月 日	担当者	ユニット名 一般目標	到達目標
11月13日(金) 2限	佐々木和彦 非常勤講師	<b>シナプス I</b>  シナプスの伝達機構を理解する。	1. シナプスの構造を説明できる。 2. シナプス伝達を説明できる。 3. 神経伝達物質を説明できる 4. 伝達物質放出のメカニズムを説明できる。
11月20日(金) 2限	佐々木和彦 非常勤講師	<b>シナプス II</b>  シナプスにおける情報の統合様式を理解する。	1. 終板電位を説明できる。 2. 興奮性シナプスを説明できる。 3. 抑制性シナプスを説明できる。 4. シナプス電位の発生メカニズムを説明できる。
11月27日(金) 2限	佐々木和彦 非常勤講師	<b>シナプス III</b>  シナプスにおける情報の統合様式を理解する。	1. 伝達物質と受容体の種類と機能を説明できる。 2. シナプス伝達を介した情報の統合様式を説明できる。
12月2日(水) 3限	成田欣弥講師	<b>生理学演習 2</b>	これまでの講義内容(シナプス)について総合的に説明できる。
12月7日(月) 2限	成田欣弥講師	<b>到達度評価試験 1</b>	これまでの講義内容(細胞膜を横切る水とイオン・細胞の電気現象・シナプス)についての理解度を評価する。
12月9日(水) 3限	成田欣弥講師	<b>細胞内情報伝達</b>  細胞が細胞外のシグナルに応答するメカニズムを理解する。	1. 細胞外と細胞内のシグナル伝達の違いを説明できる。 2. 細胞膜と細胞内の受容体を説明できる。 3. 情報伝達に参与する細胞内のタンパク質と細胞内メッセンジャーを説明できる。
12月14日(月) 2限	成田欣弥講師	<b>自律神経とホメオスタシス I</b>  ホメオスタシスの概要を理解する。	1. ホメオスタシスの意味を説明できる。 2. ホメオスタシスに参与する受容器、中枢、効果器を説明できる。 3. ホメオスタシスの具体例を説明できる。
12月16日(水) 3限	成田欣弥講師	<b>自律神経とホメオスタシス II</b>  自律神経系の働きとシナプス伝達の特徴を理解する。	1. 交感神経系と副交感神経系の分布を説明できる。 2. 交感神経と副交感神経の働きを説明できる。 3. 自律神経系の伝達物質と受容体を説明できる。
12月21日(月) 2限	成田欣弥講師	<b>自律神経とホメオスタシス III</b>  自律神経系の働きと中枢による調節理解する。	1. 各臓器に対する自律神経の作用について説明できる。 2. 自律神経系の中枢性調節機序について説明できる。

月 日	担当者	ユニット名 一般目標	到達目標
1月6日(水) 3限	成田欣弥講師	生理学演習3	これまでの講義内容(細胞内情報伝達・自律神経とホメオスタシス)について総合的に説明できる。
1月8日(金) 2限	成田欣弥講師	到達度評価試験2	これまでの講義内容(細胞内情報伝達・自律神経とホメオスタシス)についての理解度を評価する。

教科書・参考書(教:教科書 参:参考書 推:推薦図書)

	書名	著者名	発行所	発行年
教	生理学テキスト 7版	大地陸男 著	文光堂	2013年
参	ベアー コノーズ パラ ディーソ 神経科学:脳 の探求:カラー版	ベアーMF 他 著、加藤宏司 他監訳	西村書店	2007年
参	Essential 細胞生物学 原書第3版	Alberts ほか著、中村桂子ほ か監訳	南江堂	2011年

成績評価方法

評価は、到達度評価試験2回(各20%)と後期試験(60%)でおこない、総合的な得点の60%以上を合格とする。
--

オフィスアワー

担当教員	方式	曜日	時間帯	備考
成田 欣弥 講師	B-i	月~金		時間が空いていれば随時可能